



# 認定看護師通信



2020年3月発行  
Vol.29

## アドバンス・ケア・プランニング (ACP) の 勉強会を開催しました。

令和元年度、院内の医療、事務職員を対象にACPの講義と、もしバナゲームをそれぞれ3回行いました。参加者の数は、講義65名、もしバナゲーム25名でした。

ACPとは、将来起こりうる病状の変化に備えて、今後の治療・療養について患者・家族と医療従事者が患者自らの意向に基づき予め話し合うプロセスを指します。ACPを実施することにより患者の医療に関する満足度が向上し、家族の心理的負担や抑うつ、不安が改善することが明らかとなっています。そしてACPの実践は、どんな時でも患者の意向を尊重し、家族を支援する医療につながっていきます。

ACPは病院だけではなく、地域の健康な人からはじめていくことがポイントです。その人が住み慣れた場所で、最期まで過ごすことを目標に、今年度よりACP＝「人生会議」の出前講座はじめました。これからの高齢化社会において、医療・介護・福祉に携わる私たちは、最期まで尊厳を尊重し、その人の生き方に着目した医療・ケアを目指すことを求められます。それは一人ひとりの生き方や価値観を尊重し、思いをつなぐ役割でもあるのです。そのために、まずは自分の思いや価値観をみつめてみてはいかがでしょうか…。

「もしも余命半年と言われたら…人生最期までどのように過ごすことを望みますか？」



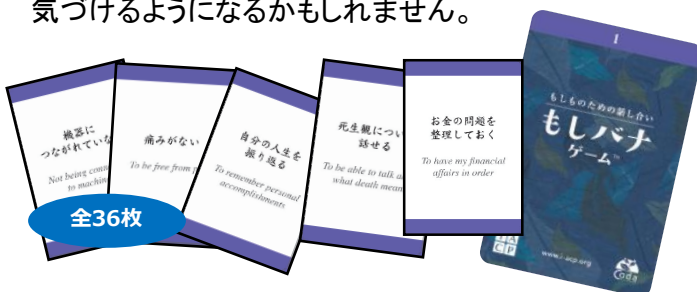
### もしバナゲーム

#### 「もしものための話し合い」＝「もしバナ」

人生の最期にどうありたいか…。多くの人が大切だとわかっているけれど、なんとなく縁起でもないという理由で避けて通っている…。

このゲームは、そんな縁起でもない話を考えたり話し合うきっかけを作るためのものです。

医療や介護の現場のスタッフ同士で行うことで、もしものことを“自分ごと”として考えたり、現場で出会う患者さんが「大切にしていること」やその「変化」にも気づけるようになるかもしれません。



「縁起でもない」話をゲーム感覚で気軽に話し合ってみませんか！！

※2020年度も開催予定です。



### もしバナゲームの感想！

健康に日常生活を過ごしていると、自身の人生最期のときを考えることはありません。このゲームを通して余命半年と仮定し、カードの文言を見るたびに私が大事にしたいことはなにか…と改めて考えさせられます。

このような経験をすることで、がん治療や緩和治療を受ける患者・家族の思いに寄り添える関わりができるヒントになると思います。

※今後も企画しますのでぜひ参加してみてください！



### もしバナのある風景・・・



iACP